作成日　2017/10/30　　改定日　2024/06/01

安全データシート(SDS)

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称:パレストーンシーラー
種類:アクリル樹脂エマルション系下塗材

製造会社
会社名:AGCコーテック株式会社
住所:〒101-0054　東京都千代田区神田錦町2丁目9番地
担当部門:CSR室　江澤　孝行
電話番号:03-5217-5104
FAX番号:03-5280-0028
緊急連絡電話番号:03-5217-5104
整理番号:1223300112307
使用上の制限:推奨用途以外への使用は推奨しない。
用途:建築用内外壁面下地処理

---

2. 危険有害性の要約

GHS分類:
物理化学的危険性:
健康に対する有害性:
急性毒性－吸入(経口)　:区分5
生殖毒性　:区分1B
環境に対する有害性:
GHSラベル要素:
絵表示シンボル:

注意喚起語:危険
危険有害性情報:
- 飲み込むと有害のおそれ
- 生殖能または胎児への悪影響のおそれ

注意書き:
安全対策:
- 絶対に飲み込まないこと。
- 使用前に本SDSを読み、全ての安全情報を理解するまで取り扱わないこと。
- 保護手袋/保護眼鏡/保護衣を着用すること。
- 粉塵、ヒューム、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- この製品を使用する時に飲食または喫煙しないこと。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- 屋外または換気の良い場所で使用すること。
- 換気が十分でない場合には、呼吸器用保護具を着用すること。
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- 残液や洗浄水は絶対に河川に流さないこと。

応急措置:
- 皮膚に付着した場合は多量の水と石鹸で洗うこと。
- 皮膚刺激または発疹が生じた場合は医師の診断、手当を受けること。
- 衣類に付着した場合は汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 目に入った場合は水で15分以上注意深く洗うこと。
- コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
  目の刺激が続く場合は必ず医師の診断、手当てを受けること。
- 吸入した場合は空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

・ 呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
・ 曝露した場合または暴露の懸念がある場合及び気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。
・ 漏洩した場合は布等でふき取ること。

保管:
・ 容器を密封し、日光の直射を避け、換気の良い場所に保管すること。
・ 容器を密封し日光の直射を避け、5～35℃で保管する。換気の良い場所に保管すること。

廃棄:
・ 内容物/容器を廃棄する場合は、都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。
・ 内容物/容器は、産業廃棄物として許可を受けた産業廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

---

3. 組成及び成分情報

化学物質／混合物の区分:混合物
化学名または一般名:　情報なし
化学特性(化学式等):　情報なし
毒物及び劇物取締法:　該当せず
成分:

成分名	CAS.№	含有量(%)	安衛法 通知物質	毒劇法	PRTR法
モノエチレングリコール	107-21-1	0.1～1	○	－	
エチレングリコールモノ－ノルマル－ブチルエーテル	111-76-2	0.1～1	○	－	
2，2，4－ﾄﾘﾒﾁﾙ－1，3－ﾍﾟﾝﾀﾝｼﾞｵｰﾙｲｿﾌﾞﾁﾚｰﾄ	25265-77-4	1～5	R8	－	
ジプロピレングリコールモノブチルエーテル	29911-28-2	1～5	R8	－	

補足説明:
・ 成分情報／安衛法通知物質(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)にて記載されている記号の内容は以下の通りとなります。
　○: 既存
　R7: R7年4月1日以降(施行予定)
　R8: R8年4月1日以降(施行予定)
成分の含有量について企業秘密であるものは範囲で記載。

---

4. 応急措置

吸入した場合:
・ 蒸気、ｶﾞｽ等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
・ 気分が悪い時には、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合:
・ 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
・ 嘔吐物は飲み込ませないこと。
・ 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

皮膚に付着した場合:
・ 付着物を布で素早く拭き取る。
・ 大量の水及び石鹸又は皮膚用洗剤を使用して十分に洗い落とす。
・ 溶剤、シンナー等は使用しないこと。
・ 外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合には医師の診断を受けること。
・ 汚染された衣類を取り除くこと。

眼に入った場合:
・ 直ちに大量の清浄な水で15分以上洗う。
・ コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
・ まぶたの裏まで完全に洗うこと。
・ できるだけ早く医師の診断を受けること。

応急措置をする者の保護:
・ 適切な保護具(保護メガネ、防護マスク、手袋等)を着用する。
・ 換気を行う。

---

5. 火災時の措置

適切な消火剤:水、炭酸ガス、粉末、泡、乾燥砂、その他
使ってはならない消火剤:情報なし
特有の危険有害性:

- ラテックス状態では不燃である。乾燥物は可燃であり、燃焼ガスは、二酸化炭素、一酸化炭素等のガスが含まれるので、消火作業の際には煙を吸入しないように注意すること。

消火方法:

- 消火活動は風上より行うこと。

---

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:

- 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用する。
- こぼれた場所は滑りやすいため、注意すること。

環境に対する注意事項:

- 漏出物を直接河川や下水に流してはいけない。
- 河川、湖沼へ流出した場合は直ちに監督官庁に連絡を取ること。

除去方法(回収、中和、封じ込め):

- 多量に流出した場合は毛布、土嚢等を用いてせき止め、バキューム等でくみ上げたり、硫酸バンド等の凝集剤を散布して凝固させ、回収後焼却処理すること。
- 少量の場合でも水で流さずボロ布等でふき取り、焼却処理すること。

二次災害の防止策:

- 濡れた状態で放置すると滑りやすくスリップ事故の原因となるため、漏出物の上をむやみに歩かないこと。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い:

- 取り扱い場所の近くに洗眼、水洗設備を設けることが好ましい。
- 屋外または換気の良い場所で使用すること。
- 換気が十分でない場合は呼吸器用保護具を着用すること。
- 保護手袋/保護眼鏡/保護衣を着用すること
- 取り扱い後はよく手洗いを行うこと。
- 出来るだけ蒸気(揮発成分)を吸入しないこと。

保管:

- 凍結、高温、直射日光を避け、屋内に貯蔵すること。
- 気温3～40℃の屋内に保管すること。
- 皮張り防止のため、使用後は密封して貯蔵すること。

安全な容器包装材料:

- 内面コートされた金属容器及びプラスチック容器が望ましい。

---

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策:

- 屋内塗装作業の場合は、自動塗装機等を使用する等、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備にすること。

管理濃度／許容濃度:

化学物質名	八時間濃度基準値 (安衛則第577条の2の2項)	短時間濃度基準値 (安衛則第577条の2の2項)	skin
モノエチレングリコール	10ppm	50ppm	

化学物質名	管理基準ppm	管理基準mg/m^3	skin
エチレングリコールモノーノルマルーブチルエーテル	25		

化学物質名	ACGIH_TWA ppm	ACGIH_TWA mg/m^3	skin
エチレングリコールモノーノルマルーブチルエーテル	20		

保護具:

眼の保護:

・ 取扱いには、保護眼鏡を着用すること。

手の保護:

・ 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

呼吸器の保護:

・ 防毒マスク(有機ガス用)が好ましい。

皮膚及び身体の保護:

・ 取り扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また、化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

---

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: エマルジョン
色	: 乳白色
臭い	: 僅かなアンモニア臭
融点／凝固点	: 情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: 約100 [℃]
可燃性	: 情報なし
爆発下限界および爆発上限界／可燃限界	: 情報なし
引火点	: なし
自然発火点	: 情報なし
分解温度	: 情報なし
pH	: 8.5
動粘性率	: 情報なし
溶解性	
水	: 可溶
n-オクタノール／水分配係数	: 情報なし
蒸気圧	: 情報なし
密度及び／又は相対密度	: 1.02
相対ガス密度	: 情報なし
粒子特性	: 情報なし

---

10. 安定性及び反応性

安定性:

・ 通常条件では安定。

危険有害反応可能性:

・ 特記すべき反応性はなし。

避けるべき条件:

・ 3℃以下あるいは40℃以上とならないようにする。

混触危険物質:

・ 水と接触して発熱するもの及び有害ガスを発生する恐れのあるものとは同一場所に貯蔵しないこと。

危険有害な分解生成物:

情報なし

---

11. 有害性情報

急性毒性:

モノエチレングリコール

LD50	(経口)	4000 mg/kg
LD50	(経皮)	10600 mg/kg

エチレングリコールモノーノルマルーブチルエーテル

LD50	(経口)	1746 mg/kg
LD50	(経皮)	135 mg/kg
LC50	(蒸気)	450 ppm

2, 2, 4ートリメチルー1, 3ーペンタンジオールイソブチレート

LD50	(経口)	3200 mg/kg
LD50	(経皮)	15200 mg/kg

皮膚腐食性／刺激性:

モノエチレングリコール	区分3
エチレングリコールモノーノルマルーブチルエーテル	区分2

眼に対する重篤な損傷／眼刺激性:

モノエチレングリコール	区分2B
エチレングリコールモノーノルマルーブチルエーテル	区分2A

呼吸器感作性:
情報なし
皮膚感作性:
情報なし
変異原性(生殖細胞変異原性):
情報なし
発がん性:
情報なし
生殖毒性:

モノエチレングリコール	区分1B
エチレングリコールモノーノルマルーブチルエーテル	区分2

特定標的臓器毒性(単回ばく露):

モノエチレングリコール	区分1(中枢神経系、腎臓、心臓、呼吸器)
エチレングリコールモノーノルマルーブチルエーテル	区分1(中枢神経系、血液、腎臓、肝臓) 区分3(気道刺激性)

特定標的臓器毒性(反復ばく露):

モノエチレングリコール	区分1(中枢神経系、心臓、呼吸器)
エチレングリコールモノーノルマルーブチルエーテル	区分2(血液)

誤えん有害性:
情報なし

---

12. 環境影響情報

・ 漏洩、廃棄等の際には、環境に影響を与える恐れがあるので取扱いに注意する。
・ 製品や洗浄水を川や排水溝に直接流れないように対処すること。

残留性／分解性:
情報なし
生態蓄積性:
情報なし
土壌中の移動性:
情報なし
オゾン層への有害性:
情報なし
生態毒性:
情報なし
水生環境有害性　短期(急性):

エチレングリコールモノーノルマルーブチルエーテル	区分2
2，2，4ートリメチルー1，3ーペンタンジオールイソブチレート	区分3

水生環境有害性 長期(慢性):

2，2，4ートリメチルー1，3ーペンタンジオールイソブチレート	区分3

---

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物
・ 廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約(マニュフェスト)をして処理をする。
・ 容器、機器装置等を洗浄した廃水等は、地面や排水溝等に直接流さない。
・ 排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。

汚染容器および包装:
・ 空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
・ 許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。

14. 輸送上の注意

・取扱いおよび保管上の注意の項の記載に従うこと。
・容器にもれのないことを確かめ、転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。
・国連番号 ： 該当なし
・指針番号 ： 該当なし

陸上輸送:

・消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。
・荷送り人は運送者に運搬注意書（イエローカード等）を交付する。

海上輸送:

・船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空輸送:

・航空法の定めるところに従うこと。

その他:

15. 適用法令

労働安全衛生法:

・57条の2通知対象物質

16. その他の情報

引用文献:

・日本塗料工業会編集 「原材料物質データベース」
・オーム社 「溶剤ポケットブック危険防災救急便覧」
・危険防災救急便覧
・国際化学物質安全カード（ICSC）
・（社）日本塗料工業会編「GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック〔混合物(塗料用)〕
・独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) 公表データ
・各原材料製造会社発行「製品安全データシート」

その他:

・このSDSは、当社の製品を適正にご使用戴くために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたので、通常の取扱いを対象としたものです。
・記載内容は、現時点で入手した資料、情報データに基づき作成しておりますが、危険、有害性に関する評価は、必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。
・このSDSは、法令の改正、新しい知見により、予告なく改訂することがあります。
・このSDSは、国の規制を含む（社）日本塗料工業会の基準に基づくものでありますが、地方自治体の規制情報は含まれていませので、当該自治体の規制に従って対処して下さい。
・危険有害成分の濃度（%）表示の幅記載は「以上～未満」をい示しています。
・PRTR該当物質については、1，2種は1%以上、特定1種0．1%以上の場合に対象となります。
・PRTR2種については、国（事業所管轄大臣）への報告は不要です。
・2項危険有害性の要約のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については「区分に該当しない」又は「分類できない」に該当します。